

2年1組 国語科学習指導案

場所 2年1組教室
授業者 太田 早恵

1 単元・教材名 お話を読んで、かんそうを書こう 「スイミー」

2 指導の立場

(1) 教材観

本作品は、入学して主人公に名前がある初めての物語である。主人公に名前があることで、児童は、主人公に寄り添いながら物語を読み進めることができるだろう。「スイミー」は、テンポがよく簡素な文であり、主人公「スイミー」の行動によって場面が展開していくので、スイミーの行動を通して物語の展開を押さえていくことが無理なくできる教材である。また、情景描写の比喩表現や体言止め、述部の省略、倒置法など様々な表現技法が駆使されている。そのため描写のおもしろさや表現の工夫を子どもたちは感じることができ、よりいっそう想像力を膨らませて読むことができる。また、挿絵は、比喩表現の情景描写を想像するのにも効果的であり、あらすじをおさえていくことや、自分の感想をまとめる教材として適している。

また、レオ＝レオニの作品に登場する人物は、スイミーだけではなく、小さな動物たちが多い。それらは子どもたちに受け入れられやすい人物であり、中心人物と自分とを重ね合わせたり、他の中心人物と比べたりしながら読むこともでき、より想像を広げながら読み進めることが期待できる。

(2) 児童の実態

読書をしたり、読み聞かせて感想を書いたりすることを好んでいる。場面の様子について、人物の様子や会話を中心に想像を広げながら読むことを「ふきのとう」で行ったが、言葉を根拠にして、自分の言葉で表現することにまだ弱さがみられる。また、場面ごとの読み取りはできても、他の場面や他教材、読書などには生かされていないと感じる。

国語の学習については、学級の半数が好きと答えたものの、話し合いや発表が好きと答え児童は三分の一にとどまった。観察記録や感想を書くことが好きな児童が多く、第三次に計画している紹介カードを書くことは意欲的に取り組むことが考えられる。

(3) 指導観

【研究内容1】に関わって

第三次の言語活動として「紹介カードを書いて交流する」ことを位置づけ、本単元での5つの言語意識を、次のように設定する。

相手意識・・・全校の仲間に

目的意識・・・いろいろな感想があることを知って、想像をふくらませて読むことを楽しむことができるように

方法意識・・・読んだ感想を書いて

場面状況意識・・・お話のどこから、どんな感想をもったのかが読んだ人にわかるように

評価意識・・・お話のどこから、どんな感想をもったのかが、読んだ人に伝わったか。

第三次の言語活動として、「レオ＝レオニの絵本の主人公を紹介しよう」を設定した。学習したことに対する有用感や成就感を味わわせ、学びの総合化を図るために、お気に入りの本を一冊選び、紹介カードを書いて仲間に紹介することにする。並行読書を本単元の始めから継続して行い、レオ＝レオニの作品世界に十分に浸らせる。

レオ＝レオニの作品は、一人一冊以上あたるように、県・町の図書館から借りた本をコーナーにして設け、すぐに本を手にとることができるようにする。

紹介カードを書く際の助けになるものとして、「レオ＝レオニ列車」と題し、レオ＝レオニの絵本のお気に入りの言葉が書き込めるカードを用意し、掲示することで読書意欲を喚起する。

紹介カードに載せる項目は、「宣伝文」「登場人物」「お気に入りの絵や言葉」「感想」とする。「宣伝文」は、伝える相手を想定して、作品のよさやおもしろさについて端的な言葉で表現することで、作品の大体を読んだり、感動の中心を整理したりすることができると思ったからである。また、仲間に伝えることで、読書の楽しさを児童自身が発信することの喜びを実感することができる考える。

【研究内容2】に関わって

一人読みの段階では、人物のしたこと・言ったことを明らかにしながら場面の様子や気持ちを読み取らせていきたい。そのためには、種類別のサイドラインを引くことで、視覚的にとらえやすくする。なお、このような学習の仕方は、「たんぼぼのちえ」でも経験しており、どの児童も主体的に取り組むことができるであろう。

読み取りに取り掛かりにくい児童用のワークシートに載せる教材文は、その単位時間のキーワードになるものについて空白にしておく。そうすることで、部分視写することを通して、本時のキーワードであることを意識させ、一人読みに取り組みやすくする。

まとめの段階では、場面やスイミーの様子を読み取った後に感想を書く際、「スイミーへの手紙を書こう」と投げかけ、自分との関わり（共通点・相違点）を考えながら感想を書くことができるよう指導する。その際、巻末の「思ったことやかんじたことをあらわすことば」等も参考にしながら、感想の観点を明らかにして感想を書く力をつけていく。また、手紙の交流を通して、同じ場面でも違う感想があることや、自分と同じ感想をもつ人がいることを確認し合うことで、読むことへの意欲を高めていきたい。

【研究内容3】に関わって

交流前段において、ネームプレートを活用し、どの児童の考えも板書に位置付け、友達の意見と関わらせながら発言ができるようにする。

また、北小の目指す「聴くこと・話すこと」にある話し方を使って、友達の考えとつなげて話したり、反応についても、その意見に対して自分がどのように感じたかを、自分の言葉で話すことに取り組んでいるところである。

大きな魚のふりをする練習をした時を動作化させることで、より深く想像することができるようにする。

交流後段において、深めの発問「なぜ、『ぼくが目になろう。』と言ったのだろう。」を投げかける際、役割演技をした時の児童の様子を見届け、なぜそのように音読したのか、動いたのかを児童に問いながら、さらに読みを深めていく。

3 単元指導計画 全12時間

【単元の目標】

- ◎人物の行動や場面の様子などについて想像を広げながら読み、感想を書くことができる。（読ウ・オ）
- 文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、それをもとに感想を書くことができる。（読エ）
- 様子を表す言葉を使って文を書くことができる。（伝国ア）

過程	時	主な学習活動 (課題・着目する語句・深めの発問)	単元を貫く 課題／言語活動		評価規準【観点】
一 次	1	・単元名とリード文を確認し、学習のめあてをもつ。 ・通読し、物語の大体をつかむ。 「スイミー」を読み、初めの感想をもとう。 ・感想をもつ視点を学習のページ（61 ページ）を活用して確認する。 ・はじめの感想を書く。	主人公の様子をとらえ、主人公と比較しながら、作品を紹介しよう。	スイミーの様子を読み取って、自分の経験や知識を入れて手紙を書こう。	・単元の見通しをもち、全文を通読することで、感想をもっている。 (関心・意欲・態度)
	2	・感想を交流し、場面わけをする。 感想を交流し、「スイミー」の学習課題を考えよう。 ・文章構成（はじめ・中・おわり）に分ける。 ・時や場所、登場人物を、挿絵をもとに確認する。 ・感想をもった場面について、本文の言葉や表現、挿絵を根拠として発表する。 ・感想をもとにして、学習課題を考える。			・場面ごとに物語の大体をつかみ、初発の感想から学習課題を考えている。 (関心・意欲・態度)
	3	・前時を振り返り、一場面の課題を確認する。 スイミーがどんな魚なのかを読みとって、スイミーへの手紙を書こう。 ・第一場面の文章と挿絵から事柄を整理する。 ・主人公の特徴をつかむ。 ・スイミーへの手紙を書く。 着目：「一匹だけ」「からす貝よりも <u>まっくろ</u> 」「 <u>だれよりもはやかった</u> 」 深め：スイミーと兄弟たちはどんなおしゃべりをしていたのでしょうか。			・スイミーの特徴をとらえ、自分の感想をまとめている。 (読ウ・オ)
	4	・前時を振り返り、二場面の課題を確認する。 まぐろから逃げたスイミーの様子を読みとって、スイミーへの手紙を書こう。 ・スイミーがしたことを確かめる。 ・兄弟たちと楽しく暮らしていたときの様子と比べる。 ・倒置法の表現の効果を確認する。 ・スイミーへの手紙を書く。 着目：「ミサイル <u>みたい</u> に」「一口で」「 <u>さびしかった</u> 。」「 <u>とてもかなしかった</u> 。」 深め：スイミーは逃げる時、どんなことを考えていたのでしょうか。			・おそろしいまぐろの登場により、兄弟たちがいなくなってしまう情景描写から、独りぼっちになって悲しんでいるスイミーの様子を想像を広げながら読み取り、スイミーに対する自分の感想をまとめている。 (読ウ・オ)
	5	・前時を振り返り、三場面の課題を確認する。 一人ぼっちのスイミーの様子を読みとって、スイミーへの手紙を書こう。 ・スイミーが見たものを確かめる。 ・比喩、体言止めなど表現の効果を確認する。 ・「すばらしいもの」「おもしろいもの」の内容を確認し、それを見たスイミーの様子を想像する。 ・比喩、体言止めの表現のよさを確認する。 ・スイミーへの手紙を書く。 着目：「すばらしいもの」「おもしろいもの」「 <u>だんだん元気</u> をとりもどした」「 <u>～みたいな</u> 」 深め：「くらげ」ではなくて、「にじ色のゼリーのようなくらげ」と説明されているのはなぜでしょう。			・すばらしく、おもしろい海の生き物の情景描写を通して、海の生き物を見てスイミーが元気を取り戻していく様子を想像を広げながら読み取り、スイミーに対する自分の感想をまとめている。 (読ウ・オ)

二 次	6・7	・前時を振り返り、四場面の課題を確認する。 赤い魚たちに出会ったスイミーの様子を読みとって、スイミーへの手紙を書こう。 ・挿絵を用いて、スイミーと赤い魚たちとの位置関係を確認する。 ・スイミーがしたこと、言ったことを確かめる。 ・比喩、倒置、体言止めなど表現の効果を確認する。 ・叙述をもとにスイミーの様子の変化を考え、読みを深める。 ・スイミーへの手紙を書く。 着目：「考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」 深め：「考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。」とき、スイミーはどんなことを考えたのでしょうか。			・スイミーが知恵を絞る場面の行動や会話を通して、スイミーの一生懸命な様子を想像を広げながら読み取り、スイミーに対する自分の感想をまとめている。 (読ウ・オ)
	8 (本時)	・前時を振り返り、五場面の課題を確認する。 大きな魚を追い出したスイミーの様子を読みとって、スイミーへの手紙を書こう。 ・スイミーがしたこと、言ったことを書き出す。 ・「ぼくが目になろう。」という前は何をしていたか、目は何色かを考える。 ・一～四場面の世界との違いを考える。 ・比喩法、対句表現をおさえる。 ・スイミーへの手紙を書く。 着目：「ぼくが目になろう」「大きな魚をおい出した。」 深め：なぜ、スイミーは「<u>ぼくが目になろう</u>」といったのでしょうか。			・大きな魚の目になったスイミーの言動・行動と挿絵を通して、大きな魚を追い出したスイミーの様子を想像を広げながら読み取り、スイミーに対する自分の感想をまとめている。 (読ウ・オ)
	9	・前時を振り返り、本時の課題を確認する。 「スイミー」を紹介しよう。 ・毎時間の「スイミーへの手紙」を読み直し、お気に入りの場面や印象に残った場面を中心に紹介カードを書く。			・これまでに読み取ったことを根拠に、自分の考えをまとめている。 (読ウ・オ)
三 次	10・11	・前時をふり返り、本時の課題を確認する。 レオ＝レオニの絵本の紹介カードを書こう。 ・お気に入りの登場人物について、理由を入れながら紹介カードを書く。 ・お気に入りの本の登場人物とスイミーとを比べて書く。 ・お気に入りの場面の挿絵とお気に入りの言葉を書く。			・レオ＝レオニの他の作品を選び、感想をまとめている。(読エ)
	12	・前時をふり返り、本時の課題を確認する。 友達の紹介シートを読み合い、感想を交流しよう。 ・グループ内で、互いの紹介カードを読み合い、付箋に一言感想を書く。			・仲間の感想を読み、自分の感想のもち方とのちがいを感じている。 (関心・意欲・態度)

＊朝活動の‘読書’の時間に、自分たちが書いた紹介カードを友達と交換し、読み合う時間を確保する。
また、低学年図書室に紹介カードを掲示することで、他学年へもレオ＝レオニの作品世界を広める。

4 本時のねらい

スイミーの赤い魚たちへの行動と会話から、動作化や部分音読、挿絵の活用を通して、大きな魚を追い出すために、自分が目になって赤い魚たちと一緒に泳ぐスイミーの様子や思いに気づき、感想をまとめることができる。

5 本時の展開（8／12）

＊人権教育の観点

	学 習 活 動	○指導・支援 ◆見届けの視点
導入	1 前時（5場面）までの学習を想起する。 ・スイミーは、大きな魚を追い出すために、必死に知恵を絞って、赤い小さな魚たちに、解決策を教えた。 2 本時の学習課題を確認する。 赤い魚たちと大きな魚を追い出すためにいっしょにおよぐスイミーの様子を読みとって、スイミーへの手紙を書こう。	○学習の足跡や教科書の挿絵を活用しながら、振り返りを発表するよう助言する。 ○スイミーのいた場所と、したこと（行動）言ったこと（会話文）を、本文の言葉と挿絵をつなげて全体で確認し、状況を把握する。
個人追究	3 6場面を音読し、スイミーの様子を一人読みする。 ・したこと：赤い魚たちと朝も、昼も一緒に泳ぎ、大きな魚を追い出した。 ・言ったこと：「ぼくが目になろう。」	○一人読みに入る前に、ワークシートの本文のスイミーがいったこと（会話）には_____， したこと（行動）には_____を引くことを確認する。 ◆言葉や表現に着目して考えている子や、前の場面とつなげて考えている児童を価値づける。
交流前段	4 読み取ったことを交流する。 ・ぼくのきょうだいと似ている仲間を助けたい。（1・2場面） ・前に会ったまぐろみたいな大きな魚だったら、やっぱりこわいな。でも、岩場のような狭い所ではなくて、広い海の中でみんなと楽しく遊びたいから、がんばろう！（2・5場面） ・外の世界には、すてきなもの、おもしろいものがいっぱいあるから一緒に見るために、大きな魚を追い出さなくちゃ。（3場面）	○どの言葉から考えたのか、根拠を明確にして話すよう声をかける。 ＊仲間の発言を真剣に聞き、仲間と関わらせながら発言しようとする態度（行動力）
交流後段	5 深めの発問をし、大きな魚のふりをする練習の様子について想像を広げる。 スイミーは、なぜ「ぼくが目になろう。」と言ったのでしょうか。 ① スイミーがからす貝よりもまっくろだから。 ② スイミーがみんなのリーダーだから。（魚の目の意味） ③ スイミーの考え方が変わったから。 （じっとしているわけにはいかない。海にはおもしろいものがいっぱい。考えた。いろいろ考えた。うんと考えた。） - 6 本時の学習をまとめる。	○動作化したり、部分音読をしたりしながら想像を広げる。 ○スイミーがいつからリーダーになったのか、それが分かる文に線を引く場を設定する。 ◆定着状況の見届け 「ぼくが目になろう」「大きな魚」という言葉を入れて、スイミーに対する手紙を書くことができるか。
まとめ	スイミーの様子について本文の言葉をもとにまとめ、スイミーへの手紙を書く。 スイミーが「ぼくが目になろう。」と言ったのは、自分だけがほかの赤い小さな魚たちとはちがって、体がまっくろだから、大きな魚の目になって追い出せると考えたんだね。そして、みんなと楽しくくらしたいと思ったんだね。 スイミーの考えを知って「なるほど」と思ったし、スイミーがみんなのリーダーになってがんばっている様子を讀んで、えらいなと思ったよ。	【評価規準】 スイミーの赤い魚たちとの行動と会話から、動作化や部分音読、挿絵の活用を通して、大きな魚を追い出すために、自分が目になって赤い魚たちと一緒に泳ぐスイミーの様子や思いに気づき、感想をまとめている。